

令和7年度～11年度

第4期 地域福祉実践計画

きもちやさしく ころおだやか

なかよくともに いつまでも

～温もりと喜びのある地域福祉の実現をめざして～



社会福祉法人

木古内町社会福祉協議会

はじめに

木古内町社会福祉協議会は、人口減少や少子高齢化が進み福祉課題が多様化・複雑化する中で、「誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指して各種事業に取り組んでいます。

近年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために行動制限が設けられるなど、経済や社会活動に大きな影響を受けてきましたが、行動制限が緩和されコロナ禍前の状況に戻りつつあることは大変喜ばしいことであります。

このような中で、社会福祉事業を進める上で根幹となる地域福祉実践計画について、当社協では、平成16年に策定した「第3期地域福祉実践計画」を最後に、十数年間にわたり未策定となっていたことは誠に遺憾であり、心よりお詫び申し上げます。

このたび、改めて「第4期地域福祉実践計画」の策定にあたり、町民の皆さまの意向を把握するために行ったアンケート調査では、社会福祉協議会が行っている事業や活動内容が十分周知されておらず今後、広報活動等について改めて取り組みを進めて行かなければならないと感じたところです。

第4期地域福祉実践計画では、地域懇談会やアンケート等で寄せられた課題解決のため、より実効性のある計画推進に向け、町民の皆さまをはじめ、行政、各関係機関・団体等の皆さまのお力添えをいただきながら、一層の取り組みを進めてまいりたいと考えていますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、このたびの計画策定にあたり、地域懇談会やアンケート調査などにご協力いただきました町民の方々をはじめ、貴重なご意見等を賜りました計画策定委員会委員の皆さまに対し、心より感謝を申し上げます。

令和7年3月

社会福祉法人 木古内町社会福祉協議会

目 次

はじめに・・・・・・社会福祉法人 木古内町社会福祉協議会 会長 工藤嗣美

1.計画策定の趣旨	1～2
1) 地域福祉実践計画とは	
2) 地域福祉実践計画の目的	
3) 地域福祉実践計画の位置づけと背景	
2.社会福祉協議会とは	3～4
1) 事業内容	
2) 木古内町社会福祉協議会組織図	
3.基本目標と基本計画	5～7
1) 現状と課題	
2) 基本目標	
3) 基本計画	
4.計画及び事業の体系	8
5.実践計画書	9～16

基本計画① 課題を見つけ解決する体制・仕組みづくり

- ① - 1 住民ニーズと地域課題の把握
- ② - 2 在宅福祉サービスの充実・推進
- ③ - 3 買い物、通院等に係る移動手段の支援
- ④ - 4 住民が気軽に集えるサロン等の実施

基本計画②

- ② - 1 有償ボランティア事業の推進
- ② - 2 ボランティアセンターの運営
- ② - 3 生活支援体制整備事業の推進
- ② - 4 地域福祉活動を担うリーダーの育成

基本計画③

- ③ - 1 災害時に対する体制整備
- ③ - 2 高齢者等の安否確認事業の推進
- ③ - 3 高齢者等の移送事業の推進
- ③ - 4 生活困窮者に対する支援
- ③ - 5 日常生活自立支援者に対する支援

基本計画④

- ④ - 1 社協組織、事業運営体制の整備・強化
- ④ - 2 身近な社協を目指すための情報提供
- ④ - 3 中長期的な経営方針の検討
- ④ - 4 役職員の資質向上

◇資料編 17～32

- ①第4期地域福祉実践計画策定員会推進要綱
- ②第4期地域福祉実践計画策定員会設置要綱
- ③第4期地域福祉実践計画策定員会策定手順
- ④第4期地域福祉実践計画策のスケジュール及び委員名簿
- ⑤第4期地域福祉実践計画策定員会答申書
- ⑥住民アンケートの結果

1.計画策定の趣旨

1)地域福祉実践計画とは

地域福祉実践計画は、社会福祉協議会が地域共生社会の実現に向けた取り組みを計画的かつ効果的に実行するため、「わがまちの社協がどのような福祉のまちづくりをめざしているか」という地域福祉の位置づけについて、地域住民の皆さまに明らかにするための計画です。

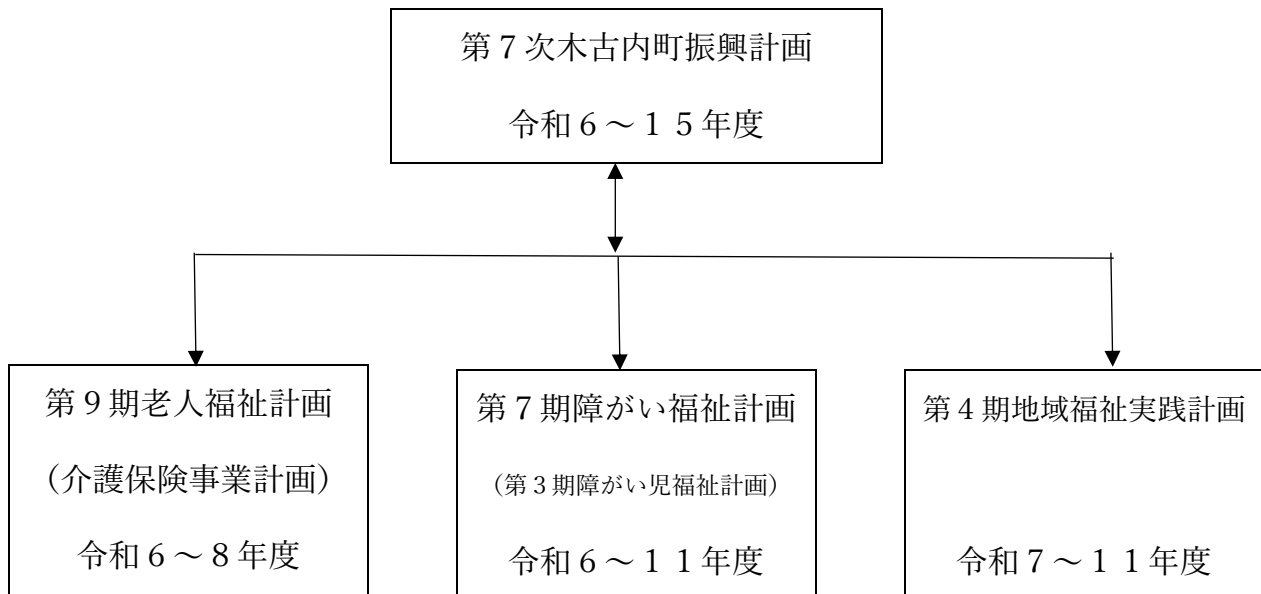
2)地域福祉実践計画の目的

木古内町における生活課題を共通に認識し、福祉活動の目標について役割分担や相互に協力して行う行動内容を明らかにするとともに、町の振興計画と整合性を図りながら、中長期的な計画を策定することにより、地域福祉計画を体形的に推進することを目的としています。



地域福祉の内容を検討する策定委員会の皆さん

3)地域福祉実践計画期間と位置づけ



■計画期間

本計画の期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

なお、急速な社会状況の変化や関連計画との整合性を図るため、計画期間中においても必要に応じて見直しを検討することとします。

■計画の位置づけ

第7次木古内町振興計画や第9期老人福祉計画、第7期障がい福祉計画と連携を図り、地域の皆さまの目線に立った「第4期地域福祉実践計画」の策定を行いました。

2.社会福祉協議会とは

1)事業内容

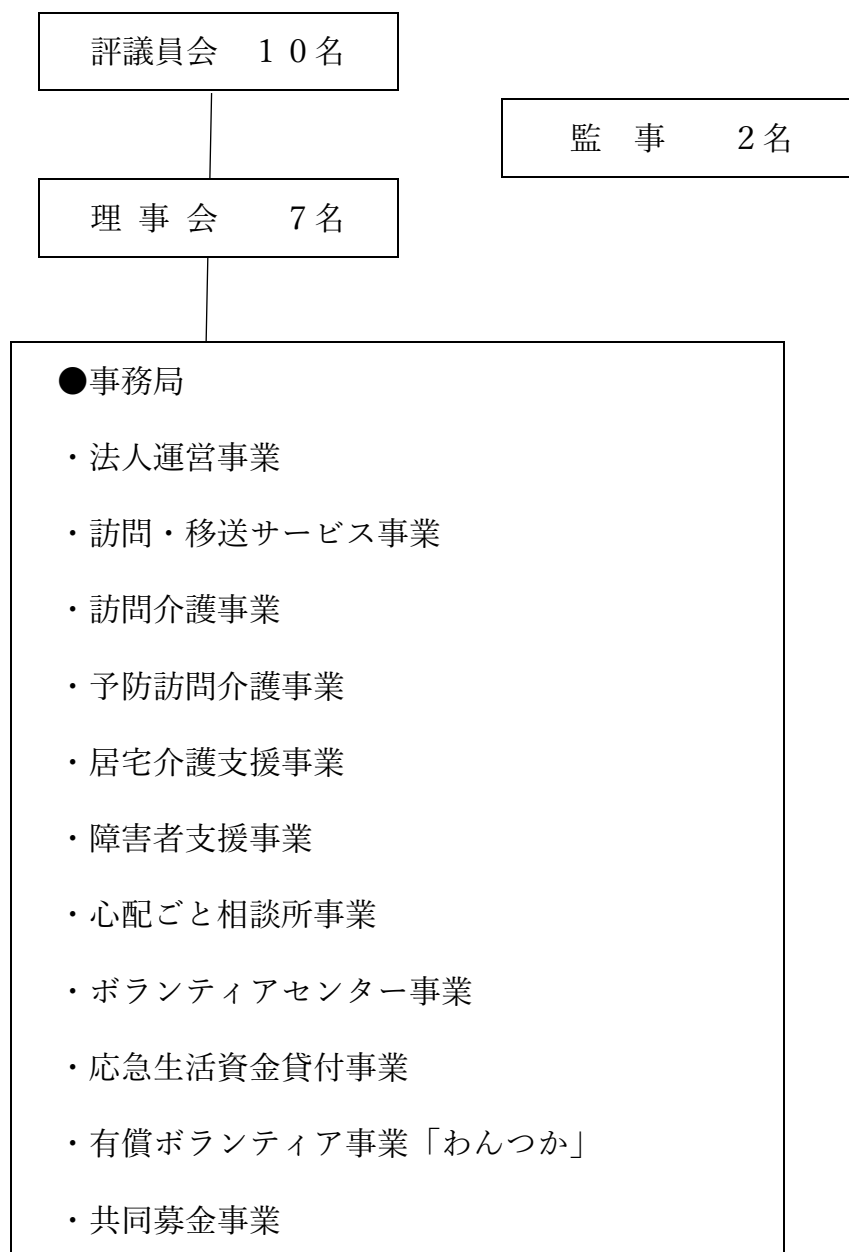
社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき「地域福祉の推進を図ることを目的」とした営利を目的としない民間組織で、全国の都道府県や市区町村に設置されています。

社会福祉協議会は、社会福祉を目的とする事業の企画や実施、社会福祉活動への住民参加のための援助をはじめ、社会福祉事業に関する調査や連絡調整など、社会福祉の目的達成のために各種事業に取り組んでいます。

木古内町社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指し、高齢者等の在宅生活を支援するための訪問介護事業や安否確認をするための声かけ訪問事業の受託など、多様で複雑化する住民の福祉ニーズに応えるため、各種事業に取り組んでいます。

また、近年は、助け合いの互助精神を基本とした住民参加型の支え合い活動の一環として、有償ボランティアサービス事業「わんつか」を実施しており、引き続き地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしてまいります。

2)木古内町社会福祉協議会組織図



3.基本目標と基本計画

1)現状と課題

○木古内町の現状と課題

木古内町の令和6年12月1日現在の人口は3,548人で、65歳以上の高齢者は1,824人で、高齢化比率は51.41%となっています。

特に、令和6年3月に策定された第9期木古内町老人福祉計画による将来推計では、町全体の人口が令和7年度から令和12年度までの5年間では約14.8%の減少率となっており、令和13年度以降についても引き続き減少傾向となっています。

また、65歳以上の高齢者の人口割合は、5年間で約2.3%増加し、令和22年度の高齢化比率は58.8%となる推計となっています。

今後は、支援を必要とする一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯の増加が見込まれることから、地域で支える体制づくりが必要となってきますが、人口減少や高齢化がこれまで以上に進行する中で、いかに地域福祉を担う人材の確保ができるかが喫緊の課題となっています。

○木古内町社協の現状と課題

木古内町社会福祉協議会では、社会福祉事業を進めるための地域福祉実践計画について、平成16年に策定した「第3期地域福祉実践計画」を最後に未策定となっていました。

社会福祉協議会としての本来の使命である地域福祉事業の推進に向け、限られた予算や職員体制の中で各種事業や福祉サービスを実施してきましたが、今後につきましても地域住民の皆さまからのニーズに応えるため、これまで以上に人材育成や情報共有に注力するとともに、地域と連携・協働しながら地域福祉事業の推進に向け努力していくことが求められています。

2)基本目標

地域には、高齢者や障がいのある人、子育て中の人、日々の生活に困っている人など、さまざまな人々が生活しています。

また、少子高齢化や核家族化が進行する中で、地域住民一人ひとりの価値観や生活の多様化により、人と人のつながりが希薄になるなど、地域における支え合いの機能が低下してきています。

誰もが地域で安心・安全に暮らしていけるまちづくりと地域の皆さまに理解していただける社協を目指し、次のとおり基本目標を定めます。

きもちやさしく　こころおだやか

なかよくともに　いつまでも

～温もりと喜びのある地域福祉の実現をめざして～

3)基本計画

1. 課題を見つけ解決するしくみづくり

住民一人ひとりの暮らしに寄り添い地域とともに地域福祉をつくり上げるためには、住民同士が日常的に交流し、つながり合うことが求められていることから、既存事業の見直しを図りながら、地域住民と共に支え合う仕組みづくりを推進します。

2. 福祉の未来を担うひとづくり

福祉意識の醸成や地域福祉活動に向け、将来の担い手となる人材の確保、発掘、育成、ボランティアの養成など、住民が共に支え合える「ひとづくり」を推進します。

3. 安心安全な暮らしづくり

住民一人ひとりが役割を持ち、自分らしい生き方を実現するとともに、だれ一人取り残さない地域共生社会づくりを推進します。

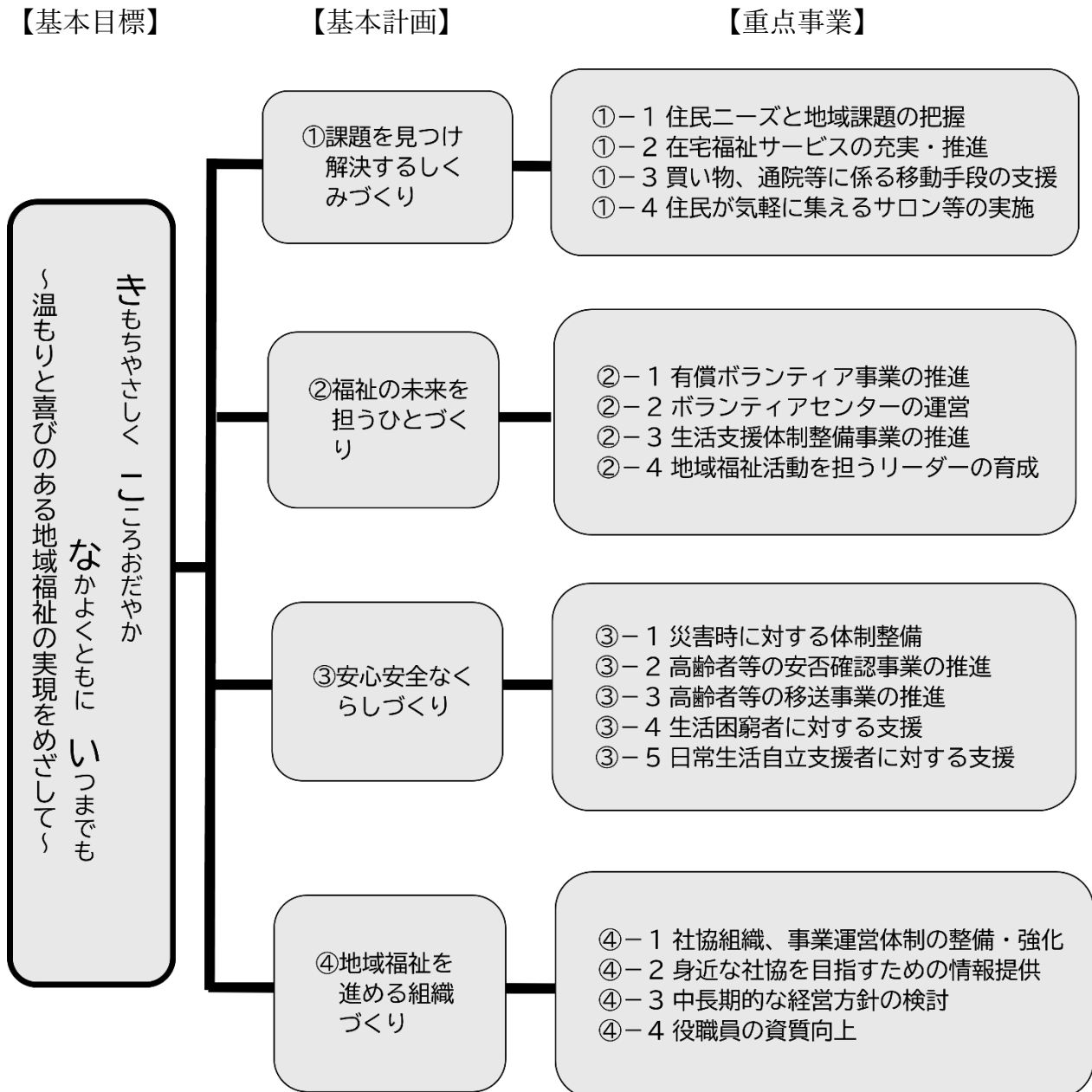
4. 地域福祉を進める組織づくり

地域住民から社協に寄せられるニーズは年々増加傾向にあります。最前線で地域福祉活動を推進する団体として、事業内容の周知や組織体制の基盤強化、役職員の資質向上など、ともに情報を共有し地域に理解され支持される社協づくりを目指します。



地域の困りごとを話し合う地域懇談会（泉沢地区）

4.計画及び事業の形体



基本計画①

課題を見つけ解決するしくみづくり

【現状と課題】

少子・高齢化の進展に伴い、世帯・生活環境が大きく変化する中で、独居高齢者世帯の増加や社会的孤立、病気、介護、生活困窮者など、複雑化した課題解決に向けた体制づくりが求められています。いつまでも住み慣れた環境の下で安心して生活するために、居宅介護支援事業所と訪問介護事業所が連携した事業推進を実施してまいります。

孤立や閉じこもりを防止するとともに、住民とおしのつながりや居場所づくりを進めるため、サロンなどへの参加を積極的に奨励してまいります。

また、住民からの要望が多い、在宅高齢者等の外出支援事業実施に向けた取り組みが必要となります。

【具体的実践項目】 ○：実施 ◎：重点 △：調査検討

重点事業①ー１ 住民ニーズと地域課題の把握

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	住民に対する福祉ニーズ調査等の実施 ・各地区において地域懇談会を実施する ・幅広い町民を対象としたアンケート調査を実施する (地域福祉実践計画作成の前年に実施)				◎	
2	介護保険利用者等からのニーズ・課題の把握 ・ホームヘルプサービス利用者や居宅介護支援サービス利用者等からのニーズや課題を把握する	○	○	○	○	○
3	地域福祉懇談会の開催 ・社会福祉協議会の実施状況や地域福祉実践計画策定の考え方について説明し、地域住民との意見交換を実施する		○		○	
4	生活支援コーディネーターの体制整備 ・地域住民のニーズや課題を把握するための生活支援コーディネーターの体制を整備する	○	○	○	○	○

重点事業①ー２ 在宅福祉サービスの充実・推進						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	訪問介護事業所の運営と検証 ・ 居宅介護支援専門員と連携し、利用者のニーズに対応したサービスの提供を行う ・ 介護保険の改正動向を見極め、利用者規模に見合った職員体制などの事業所運営の検証を行う	○	○	○	○	○
2	居宅介護支援事業所の運営と検証 ・ 利用者のニーズに対応したサービスの提供を行う ・ 介護保険の改正動向を見極め、利用者規模に見合った職員体制などの事業所運営の検証を行う	○	○	○	○	○
重点事業①ー３ 買い物等に係る移動手段の支援						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	在宅高齢者等外出支援事業の実施 ・ 安否確認サービス利用者を対象に、買い物等の外出支援を行う	△	△	○	○	○
重点事業①ー４ 高齢者が気軽に集えるサロン等の整備						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	介護予防サロン「ピンコロ会」の事業推進 ・ 地域を指定し、介護予防を目的としたレクやものづくり等の事業を推進する	○	○	○	○	○
2	かようサロンの事業推進 ・ 孤食や閉じこもりを防止するため、住民が食事を通じて交流を図ることを推進する	○	○	○	○	○
3	ものづくりサロンの事業推進 ・ 様々なものづくりを通じて、住民同士のつながりや居場所づくりの推進を図る	○	○	○	○	○
4	スマホくらの事業推進 ・ スマートフォンやタブレット等の基本操作や、ちょっとした困りごと等に相談できる体制づくりに努める	○	○	○	○	○
5	森林浴とお散歩を楽しむ会の事業推進 ・ 介護予防を目的として、体力の低下予防と外出機会を提供するための事業を推進する	○	○	○	○	○

基本計画② 福祉の未来を担うひとづくり

【現状と課題】

少子・高齢化社会を迎える中で、福祉サービスに対するニーズが増大し、重要な役割となる福祉サービスを担う人材育成・確保がますます重要となっています。一方、人口減少に伴い福祉や介護に携わる人材不足により事業所運営に支障を来す状況となっています。

価値観やライフスタイルの変化に伴い、地域交流を必要と感じない人が増えており、地域や地域福祉に対する地域住民の意識や関心の低下が懸念されています。

質の高い地域福祉サービスを確保し、だれもが居場所や役割を持ちながら地域活動をスムーズに展開させるため、地域づくりを推進するためのひとづくりを積極的に推進します。

【具体的実践項目】 ○：実施 ◎：重点 △：調査検討

重点事業②ー１ 有償ボランティア事業の推進

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	有償ボランティア「わんつか」の事業実施 ・助け合いの互助精神を基本とした住民参加型の支え合い活動の一環として継続した事業を行う	○	○	○	○	○
2	有償ボランティア登録者の加入促進 ・地域での有償ボランティア活動を進めるために登録者の加入促進に努める	○	○	○	○	○
3	ボランティアコーディネーターによる事業の推進 ・有償ボランティア活動を進めるためボランティアコーディネーターが調整役として事業を推進する	○	○	○	○	○

重点事業②ー２ ボランティアセンターの運営

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	ボランティアセンター事業の推進 ・ボランティアセンターの適切な運営と活動状況について協議する	○	○	○	○	○
2	ボランティア研修会への参加 ・ボランティア研修会に参加し、担い手づくりの取り組みを進める	○	○	○	○	○
3	ボランティア交流会の実施 ・ボランティア活動者同士の情報交換を行う中で、ボランティアセンターの充実を図る	○	○	○	○	○
4	住民福祉の集いの実施 ・福祉について広く住民が知る機会を設けるためボランティアスクール事業として住民福祉の集いを開催する	○	○	○	○	○

重点事業②ー3 生活支援体制整備事業の推進

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	住民と協議体の運営体制強化 ・関係者間のネットワーク構築や情報の共有に努め 問題や課題解決に向けた取り組みを推進する	○	○	○	○	○
2	生活支援コーディネーターの資質向上 ・地域課題を把握するとともに、研修会等へ参加し 資質向上に努める	○	○	○	○	○
3	成年後見制度の取り組み ・成年後見に関する制度等の周知を図り、法人後見の 取り組みを推進する	△	△	○	○	○
4	ケアラー・ヤングケアラーの取り組み ・ケアラーやヤングケアラーの実態調査を実施し 必要な支援体制の構築を図る	△	△	○	○	○

重点事業②ー4 地域福祉活動を担うリーダーの育成

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	町内会への支援と協力体制の強化 ・地域福祉活動の中核となる町内会活動を支援し 人材育成の養成を図る	△	○	○	○	○



基本計画③

安心安全な暮らしづくり

【現状と課題】

災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営には専門的な知識を持つための人材育成が重要であり、日頃から災害ボランティアの啓発・登録活動を推進するための体制づくりが求められます。

ひとり暮らしなどの高齢者等に対する声かけ・安否確認、医療機関を受診するための移送サービスについても引き続き継続して事業の推進を図ります。

また、生活困窮者等に対する生活資金貸付事業を継続するとともに、こども食堂事業やフードバンク事業、日常生活自立支援者に対する支援の取り組みについて推進してまいります。

【具体的実践項目】 ○：実施 ◎：重点 △：調査検討

重点事業③ー１ 災害時に対する体制整備						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	防災に関する事業の実施 ・大規模災害に対応した研修会を実施する	○	○	○	○	○
2	災害時要支援者支援マップの作成 ・要支援者の状況を把握し、町内会ごとに対象者を支援するためのマップを作成する	△	○	○	○	○
3	災害時支援ボランティアの啓発・登録 ・災害時支援ボランティアの必要性を啓発し、登録制度を推進する	△	○	○	○	○
重点事業③ー２ 高齢者等の安否確認事業の推進						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	ひとり暮らし老人等訪問サービス事業の推進 ・声かけ訪問や安否確認を行い孤独感の解消や早期の異変に気づき暖かなコミュニティづくりを目指すための事業を推進する	○	○	○	○	○
重点事業③ー３ 高齢者等の移送事業の推進						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	寝たきり老人等移送サービス事業の推進 ・日常生活に支障がある方が、町内の医療機関を受診する際に移送サービスを提供することを目的とした事業を推進する	○	○	○	○	○

重点事業③－４ 生活困窮者に対する支援						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	応急生活資金の貸付事業の推進 ・低所得世帯に対し、安定した生活を営むため、資金の貸付と必要な援助指導を行うための事業を推進する	○	○	○	○	○
2	生活福祉資金貸付事業の推進（道社協受託事業） ・一時的に困窮する低所得者世帯に対し、民生委員と連携し心配ごと相談を行う中で、資金の貸付と必要な援助指導を行うための事業を推進する	○	○	○	○	○
3	こども食堂の事業の推進 ・地域で生産された食材を取り入れたこども食堂を実施し、子どもと大人が集う場としての事業を推進する	○	○	○	○	○
4	フードバンク事業の推進 ・未利用食品の提供等を通じた食品ロスの削減を推進し、施設や団体、困窮世帯に無償で提供するための事業を推進する	△	△	○	○	○
重点事業③－５ 日常生活自立支援者に対する支援						
実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	日常生活自立支援者に対する支援の推進 ・判断能力が十分でない高齢者や障がい者等に対し、金銭管理や各種福祉サービスの手続き等を行うための事業を推進する	○	○	○	○	○
2	福祉車両・車いす貸出事業の実施 ・外出支援や社会参加を促進するため、福祉車両等を貸出し福祉向上に寄与する事業を推進する	○	○	○	○	○

基本計画④

地域福祉を進める組織づくり

【現状と課題】

社会福祉協議会は、行政や福祉関係者、事業利用者等の一部の方には認知されていますが、地域住民の多くの方にはあまり理解されていない状況となっており、広報誌の発行・ホームページ・SNS等の活用や地域懇談会を開催し、より一層の周知・理解をしていただく取り組みが必要です。

また、組織経営の基盤となる財源確保が重要となることから、会費等の自主財源の確保を進めるとともに、経営状況が厳しい介護保険サービス事業等については、利用者やご家族からの要望に応える中でより一層の財源確保を行い、財政の健全化に向けた取り組みを進めてまいります。

【具体的実践項目】 ○：実施 ◎：重点 △：調査検討

重点事業④－１ 社協組織、事業運営体制の整備・強化

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	理事会・評議員会の開催 ・法人の管理体制強化、組織力の向上など、法人運営の充実を図る	○	○	○	○	○
2	監事監査の実施 ・経営状態や財政状況の透明性や健全性を保つため、四半期ごとの監事監査を実施する	○	○	○	○	○
3	行政、福祉施設等の関係団体との連携 ・福祉課題や住民ニーズに柔軟に応えるため、各関係機関と連携を図る	○	○	○	○	○
4	福祉総合窓口設置の検討 ・福祉や暮らしに関わる総合的な相談窓口の設置に向けた検討を行う	△	△	○	○	○

重点事業④－２ 身近な社協を目指すための情報提供

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	広報誌の定期発行 ・広報誌「社協だより」を定期的に発行し、町民に対し広く社協活動等を周知する	○	○	○	○	○
2	ホームページ等の管理・運営 ・社協活動を広く町民に周知するため、ホームページやSNS等を適正に管理・運営し活用を図る	○	○	○	○	○

重点事業④－３ 中長期的な経営方針の検討

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	法人の健全運営と財源確保の強化 ・人口減少に伴い会費収入が減少傾向にあることから 個人・法人等の賛助会員の募集を図り、財源確保に 向けた取り組みを推進する	○	○	○	○	○
2	町からの受託事業の検証 ・声かけ訪問事業や生活支援コーディネーター事業な どの受託事業の体制確保や事業の検証を行う	○	○	○	○	○
3	介護保険事業等の安定運営 ・介護保険法の改正など動向を注視し、利用者の希望に 沿った職員体制を堅持し、事業所運営の健全化を図る	○	○	○	○	○
4	職員の適正な処遇改善の実施 ・職員の労働条件・職場環境や福祉向上に向け、職員の 処遇改善を図る	○	○	○	○	○
5	共同募金委員会の可視化 ・共同募金助成金は、地域福祉事業の貴重な財源であ り、仕組みや使用目的をＰＲし、有効的な活用方法 を検討する	○	○	○	○	○

重点事業④－４ 役職員の資質向上

実 践 項 目		年 度				
		7	8	9	10	11
1	役職員の研修会への参加 ・役職員の資質向上を図るため、各種研修会や講習会 などに積極的に参加できる体制づくりを推進する	○	○	○	○	○
2	資格取得の取得と専門職への養成・確保 ・ホームヘルパーの上位資格である介護福祉士の資格 取得に対する支援を行う中で、専門職の養成と確保 に努める	○	○	○	○	○

木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画推進要綱

1. 主 旨 この要綱は、社会福祉法に基づく地域福祉の推進主体である、社会福祉協議会の地域福祉に対する総合的な施策の推進が求められていることから、第7次木古内町振興計画をはじめとする各種行政計画との整合性や北海道社会福祉協議会並びに地域福祉関係団体との連携を図り、広く町民や関係機関・団体等からのニーズを把握するとともに、介護保険法や障害者自立支援法等の法や制度を考慮し、諸課題に対応する組織体制や事業推進体制、経営基盤の確立を含めた「木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画」（以下、「地域福祉実践計画」という。）を策定し、木古内町社協における地域福祉の位置づけについて、地域住民に明らかにするものです。
2. 実施主体 社会福祉法人 木古内町社会福祉協議会
3. 計画年数 令和7年度～令和11年度（5年間）
4. 計画内容 地域福祉実践計画は、「基本目標」「基本計画」「実践計画」を策定します。
具体的な内容については、地域特性等を考慮しながら策定委員会で協議して決定しますが、住民参加を強く意識した民間の福祉活動計画であることから、地域住民に広く受け入れられるような親しみやすい計画とするものです。
5. 推進方法 （1）木古内町社会福祉協議会が主体となり、住民代表や関係機関、各種団体等から委員を選考し、「木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定委員会」を設置する。
（2）住民アンケート等を実施し、広く地域住民の意見を求める。
（3）北海道社会福祉協議会の指導や支援を受けて、効果的な計画策定の推進を図る。
6. 事務局 事務局は、木古内町社会福祉協議会内に置く。

附 則

この要綱は、令和5年12月11日から施行する。

木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定委員会設置要綱

(設 置)

第1条 この要綱は、木古内町社会福祉協議会長の諮問に応じ、第4期地域福祉実践計画の策定に関し、必要な調査及び審議を行うため、木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定委員会（以下、「策定委員会」という。）を置く。

(組 織)

第2条 策定委員会は、委員12名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから木古内町社会福祉協議会長が委嘱する。

(1) 町民団体代表

(2) 民生委員児童委員代表

(3) 福祉団体代表

(4) 社会福祉施設関係者代表

(5) 教育関係者代表

(6) 学識経験者

(7) その他木古内町社会福祉協議会長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第3条 策定委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを決める。

2 委員長は策定委員会を代表し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(任 期)

第4条 委員の任期は、策定委員会の答申が終了するまでの期間とする。

(会 議)

第5条 策定委員会は、委員長が招集する。

2 策定委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことはできない。

3 策定委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(費用弁償)

第6条 策定委員に費用弁償を支給する。

2 策定委員の会議の出席に伴う費用弁償は、社会福祉法人木古内町社会福祉協議会役員等の報酬及び費用弁償支給規程を準用する。

(庶務)

第7条 策定委員会の庶務は、木古内町社会福祉協議会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会に関し必要な事項は木古内町社会福祉協議会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年12月11日から施行する。

木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定手順

ステップ1 事前準備

1. 事務局での事前協議体制づくり
2. 行政との連携
3. 先行事例の情報収集
4. 理事会・評議員会での承認

ステップ2 策定のための組織づくり

1. 策定委員会の役割
2. 策定委員会の立ち上げ・諮問
3. 計画策定の周知

ステップ3 現状把握・課題整理・問題の明確化

1. 地域特性の把握
2. 住民ニーズ把握のためのアンケート調査の実施
3. 地域の福祉ニーズ把握のための地域懇談会の実施

ステップ4 基本目標・基本計画・実施計画の策定

1. 事務局案の作成
2. 策定のための組織での検討
3. 計画素案に対する策定委員からの意見集約
4. 計画案の確定・答申

ステップ5 承認

1. 理事会・評議員会での承認（制定）

ステップ6 啓発・広報

1. 地域住民への啓発のため広報紙等で周知

ステップ7 評価

1. 実践計画策定委員会を「第4期地域福祉実践計画評価委員会」に置き換えて、評価を行う。

木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定スケジュール

◎策定スケジュール

- ・令和5年8月下旬 事務局の体制づくり・先行事例の情報収集
- ・令和5年11月下旬 理事会・評議員会に提案・承認
- ・令和6年1月下旬 第1回策定委員会
- ・令和6年2月下旬～ 住民アンケートの実施
- ・令和6年4月下旬 住民アンケート結果のまとめ
- ・令和6年5月下旬 第2回策定委員会
- ・令和6年7月中旬 町民（町内会）等との懇談会の実施
- ・令和6年12月上旬 第3回策定委員会
- ・令和7年2月中旬 第4回策定委員会（答申）
- ・令和7年3月中旬 理事会・評議員会で承認

◎委員名簿

委員長	渡 辺 悟	木古内町社会福祉協議会副会長
副委員長	新井田 記 子	木古内町社会教育委員
委員	新井田 昭 男	泉沢自治会長
	西 村 利 彦	花園町内会長
	松 臺 祐 吉	木古内町民生児童委員
	岡 山 マサ子	木古内町民生児童委員
	吉 田 末 治	木古内町老人クラブ連合会
	宮 下 秋 子	木古内町心身障害者福祉協会
	東 誠	特別養護老人ホームいさりび事務長
	吉 田 宏	木古内町保健福祉課長
	畑 中 正 実	木古内町町民課長

答 申 書

令和7年2月13日

社会福祉法人木古内町社会福祉協議会
会 長 工 藤 嗣 美 様

第4期地域福祉実践計画策定委員会
委員長 渡 辺 悟

令和6年1月31日付で貴職より諮問を受けました「木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画」の策定について、「第7次木古内町振興計画」や「第9期木古内町老人福祉計画」等の関連する福祉施策を踏まえながら、町民アンケートや地域懇談会を実施する中で、4回にわたる策定委員会を開催し、地域福祉の在り方や将来を見据えた実践計画について協議し、別添のとおり木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画を策定しましたので答申いたします。

木古内町社会福祉協議会第4期地域福祉実践計画策定のための 住民アンケート集計結果

アンケート配布数 312件 回答数 153件 回答率 49.0%

1. 調査にあたって、基礎的なことについておたずねします。

問1 あなたの性別を教えてください。(ひとつだけ○)

① 男性 ② 女性 ③ 無回答

回 答 男性 69人 (45.1%) 女性 82人 (53.6%) 無回答 2人 (1.3%)

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(ひとつだけ○)

① 19歳以下 ② 20歳代 ③ 30歳代 ④ 40歳代
⑤ 50歳代 ⑥ 60歳代 ⑦ 70歳代 ⑧ 80歳以上

回 答 (上段：人、下段：%)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	未記入	計
11	11	19	14	19	22	29	28	0	153
7.2%	7.2%	12.4%	9.2%	12.4%	14.4%	19.0%	18.3%	0.0%	100.0%

問3 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

① ひとり暮らし世帯 ② 夫婦のみの世帯 ③ 親と子の2世代世帯
④ 親と子と孫の3世代世帯 ⑤ その他 (別紙-1)

回 答

①	②	③	④	⑤	未記入	計
30	37	61	21	3	1	153
19.6%	24.2%	39.9%	13.7%	2.0%	0.7%	100.0%

問4 あなたの家族内に高齢や障がいなどのために介護を必要とする人はいますか。

(ひとつだけ○)

① いる ② いない

回 答 いる 19 人 (12.4%) いない 132 人 (86.3%) 無回答 2 人 (1.3%)

2. 地域との関わりについておたずねします。

問5 あなたは、ふだん近所の人とどの程度付き合いをしていますか。(ひとつだけ○)

- ① 家を行き来するほど親しくつきあっている
② 顔が合えば立ち話をする程度 ③ あいさつをする程度
④ ほとんど付き合いはない ⑤ 隣近所にどんな人が住んでいるかわからない
⑥ その他 (別紙-1)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	未記入	計
23	49	65	12	2	2	0	153
15.0%	32.0%	42.5%	7.8%	1.3%	1.3%	0.0%	100.0%

問6 あなたのお住いの地域で、気になるところ（不安や不満）はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 住民間のコミュニケーションがとりにくい ② 町内会の活動が活発でない
③ 買い物など日常生活が不便である ④ 病院など医療機関が遠い（少ない）
④ 介護施設や保育園などの福祉施設が遠い（少ない）
⑥ その他 (別紙-1)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	未記入	計
16	24	28	39	7	22	41	177
10.5%	15.7%	18.3%	25.5%	4.6%	14.4%	26.8%	-

問7 あなたは、ふだん地域でどのような活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 町内会活動 ② 女性団体活動 ③ 老人クラブ活動 ④ P T A 活動
 ⑤ 子ども会活動 ⑥ スポーツ団体活動 ⑦ ボランティア活動
 ⑧ 趣味等のサークル活動 ⑨ 参加したことがない
 ⑩ その他 (別紙-1)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	未記入	計
37	6	5	8	8	4	12	7	72	9	11	179
24.2%	3.9%	3.3%	5.2%	5.2%	2.6%	7.8%	4.6%	47.1%	5.9%	7.2%	-

問8 あなたは、暮らしの中で相談や助けが必要なとき、誰に頼みたいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 家族・親戚 ② 近所の人 ③ 知人・友人
 ④ 職場の人 ⑤ 医療機関や医師 ⑥ 民生委員・児童委員
 ⑦ 社会福祉協議会 ⑧ 地域包括支援センター ⑨ 町内会
 ⑩ 役場の職員 ⑪ 頼める人がいない ⑫ 頼むつもりはない
 ⑬ その他 (別紙-2)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
126	17	57	18	21	4	12	6
82.4%	11.1%	37.3%	11.8%	13.7%	2.6%	7.8%	3.9%
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	未記入	計	
10	15	6	3	2	5	302	
6.5%	9.8%	3.9%	2.0%	1.3%	3.3%	-	

問 9 あなたが、もし高齢や病気、事故等で日常生活が不自由になったとき、地域の人たちに何をしてほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

- ① 安否確認の声かけ ② 趣味などの話し相手 ③ 買い物の手伝い
 ④ ごみ出し ⑤ 外出の手助け ⑥ 家の周りの掃除
 ⑦ 除雪 ⑧ 介護や介助 ⑨ 短時間の子どもの預かり
 ⑩ 緊急時の手助け ⑪ 特にない ⑫ その他 (別紙-2)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
54	6	45	29	31	18	87	32
35.3%	3.9%	29.4%	19.0%	20.3%	11.8%	56.9%	20.9%
⑨	⑩	⑪	⑫	未記入	計		
6	56	21	3	6	394		
3.9%	36.6%	13.7%	2.0%	3.9%	-		

問 10 隣近所で、高齢者や障がいのある人の介護・介助や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 安否確認の声かけ ② 趣味などの話し相手 ③ 買い物の手伝い
 ④ ごみ出し ⑤ 外出の手助け ⑥ 家の周りの掃除
 ⑦ 除雪 ⑧ 介護や介助 ⑨ 短時間の子どもの預かり
 ⑩ 緊急時の手助け ⑪ 特にない ⑫ その他 (別紙-2)

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
76	17	39	36	18	21	53	7
49.7%	11.1%	25.5%	23.5%	11.8%	13.7%	34.6%	4.6%
⑨	⑩	⑪	⑫	未記入	計		
8	60	21	7	10	373		
5.2%	39.2%	13.7%	4.6%	6.5%	-		

3. サービスについておたずねします。

問 1 1 あなたは現在、日常において何らかの支援を必要としている人が、十分な福祉サービスを受けているとお考えですか。（ひとつだけ○）

- ① 十分な福祉サービスを受けていると思う
 ② ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う
 ③ 十分な福祉サービスを受けているとは思えない ④ わからない
 ⑤ その他（ 別紙-2 ）

回 答

①	②	③	④	⑤	未記入	計
11	55	14	65	3	5	153
7.2%	35.9%	9.2%	42.5%	2.0%	3.3%	100.0%

問 1 2 あなたが、町内でこれから充実してほしい、またはあれば良いと思う福祉サービスはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

- ① 独居高齢者の見守り強化に関する事業 ② 家族介護者同士の交流事業
 ③ 子育て支援の充実強化に関する事業 ④ 買い物代行支援事業
 ⑤ 病院への移送サービス ⑥ 家の片付け等の身近な困りごとの支援
 ⑦ 幼児教育（就学前教育） ⑧ その他（ 別紙-2 ）

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	未記入	計
62	10	32	42	57	33	15	10	26	287
40.5%	6.5%	20.9%	27.5%	37.3%	21.6%	9.8%	6.5%	17.0%	-

問 13 あなたは、町民福祉を推進している木古内町社会福祉協議会の事業や活動を知っていますか。(知っているものすべてに○)

- ① ものづくりサロン ② かようサロン ③ ピンコロ会
- ④ 安否確認（声かけ訪問）事業 ⑤ 移送事業 ⑥ 福祉相談事業
- ⑦ 応急生活資金貸付事業 ⑧ 生活福祉資金貸付事業（道社協）
- ⑨ 赤い羽根共同募金 ⑩ 広報紙発行（社協だより、ホームページ、SNS）
- ⑪ 有償ボランティア「わんつか」 ⑫ ボランティアセンター事業
- ⑬ 森林浴とお散歩を楽しむ会 ⑭ 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）
- ⑮ 障がい福祉サービス事業（ホームヘルパー派遣）
- ⑯ 居宅介護支援事業（ケアプラン作成） ⑰ 日常生活自立支援事業

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
44	37	40	60	33	36	13	17	104	63
28.8%	24.2%	26.1%	39.2%	21.6%	23.5%	8.5%	11.1%	68.0%	41.2%
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	未記入	計	
41	17	46	73	46	49	17	20	756	
26.8%	11.1%	30.1%	47.7%	30.1%	32.0%	11.1%	13.1%	-	

問 1 4 木古内町社会福祉協議会は、さまざまな福祉問題の解決に向けて活動や支援を行っています。今後、充実したほうが良いと思う活動・支援はどのようなものですか。（3つまで○）

- ① 住民による見守りや支え合い活動への支援
- ② ボランティア活動の参加促進や支援
- ③ 隣近所や町内会など、地域における住民同士の交流活動への支援
- ④ 気軽に相談できる総合福祉相談の充実
- ⑤ 誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービスの充実
- ⑥ 地域住民への福祉に関する普及啓発
- ⑦ 学校における福祉体験学習の推進
- ⑧ 広報紙やインターネット、SNS等による福祉に関する情報発信の充実
- ⑨ 特にない ⑩その他 （ 別紙-2 ）

回 答

①	②	③	④	⑤	⑥
41	12	19	59	76	17
26.8%	7.8%	12.4%	38.6%	49.7%	11.1%
⑦	⑧	⑨	⑩	未記入	計
14	14	19	2	24	297
9.2%	9.2%	12.4%	1.3%	15.7%	—

問 1 5 今後、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めて行くために、社会福祉協議会の活動や福祉サービスの在り方について、何かご意見があればご記入ください。

別紙-3

問3 ⑤その他

- ・姉弟（60代女性）
- ・記入なし（20代男性）
- ・兄と同居（70代女性）

※住民票は木古内だが町外にひとり暮らし（月に2～3回は帰ってくる）（20代男性）

問5 ⑥その他

- ・家に遊びに来る（70代男性）
- ・挨拶はするが、よくわからない（30代女性）

問6 ⑥その他

- ・交通の便（60代女性）
- ・町内会長によそ者と一緒になれないと言われ、町内会はありません（60代男性）
- ・介護サービス事業所がない（50代男性）
- ・スギの木が切られて登校中さむい（19歳以下男性）
- ・特にない（80歳以上男性）
- ・なし（70代女性）
- ・特にありません（80歳以上男性）
- ・特にない（60歳以上男性）
- ・ない（70代男性）
- ・今は車で買い物などできるが、車を手放したら町に行きづらくなります（60代女性）
- ・なし（60代女性）
- ・なし（50代女性）
- ・移動手段が少ない（19歳以下男性）
- ・なし（80歳以上女性）
- ・かわり方がわからない（30代女性）
- ・今のところありません（60代女性）
- ・今のところ車で移動が可能なのでさほど不安・不満はありませんが、免許返納後の買い物、病院等々の移動に不安はあります（60代女性）
- ・町内会費が高い（30代女性）
- ・特にない（20代男性）
- ・特になし（80歳以上男性）

問7 ⑩その他

- ・現在はない（40代男性）
- ・神社（19歳以下男性）
- ・町内会活動まったくなし（70代男性）
- ・祭り（19歳以下男性）
- ・子どもの時は参加していた（20代男性）
- ・活動をしていない（30代女性）
- ・消防団、農協組織活動（40代男性）
- ・お祭り（50代男性）

問 8 ⑬その他

- ・できるだけ1人でやっていくつもり。どうしてもときは、親戚や知人・友人に頼んでみる
(70代女性)
- ・ネット上の友達(30代女性)

問 9 ⑫その他

- ・わからない(19歳未満男性)
- ・思いつかない(70代男性)
- ・仕事ヘルパー(50代男性)

問 10 ⑫その他

- ・その時にできること(40代男性)
- ・自分一人でも大変なので、手伝いたくてもできない(70代女性)
- ・仕事ヘルパー(50代男性)
- ・車の運転をするので(80歳以上女性)
- ・できない(80歳以上男性)
- ・調理して多く作ってしまった場合、連絡してから持っていく(30代女性)
- ・今のところなんでも(70代女性)

問 11 ⑤その他

- ・福祉サービスについてわからない、どこまでか?(70代男性)
- ・個の捉え方だと思うからわからない(50代女性)
- ・人それぞれ感じ方が違うので、満足とは言えないが不満までいかない程度(50代男性)

問 12 ⑧その他

- ・多くてわからない(60代女性)
- ・デマンドバス(19歳以下男性)
- ・未記入(70代男性)
- ・ない(20代女性)
- ・移動手段の追加(19歳以下男性)
- ・娘と暮らしているので今のところは心配ない(80歳以上女性)
- ・独居だけでなく、老々高齢者を含めてほしい。配食サービス、独居生活ができなくなった方たちの日中預かり又は共同生活の場(50代女性)
- ・ひとり親の医療費助成(30代女性)
- ・子どもの放課後デイサービス(40代男性)

問 14 ⑩その他

- ・未記入(70代男性)
- ・わからない(30代女性)

問 15

- ・ 町と連携し、成年後見の権利擁護等の事業の推進（４０代男性）
- ・ 特になし（４０代女性）
- ・ 町民の必要としているニーズに寄り添ったサービス提供が今後の課題としてあると思います
（５０代男性）
- ・ 問９・１０について、どこまでやっていいのかわからないので、他人にはどこまでやっていいのかわからない（７０代女性）
- ・ 社会福祉協議会というものが、どのような活動をしているのかが良くわからない。もう少し、まちの近くでなく、山の方にも活動できる場をお願いします。やはり、車がなければどこにも行くことができません。交通面も考えてほしいです（７０代男性）
- ・ 現在、高校３年です。木古内町が、誰もが仲良くニコニコできる町になってほしいです
（１９歳未満男性）
- ・ なし（１９歳以下男性）
- ・ 木古内町は支援が充実しているので特になし（８０歳以上女性）
- ・ 申し訳ありません、今は思いつきません（６０代女性）
- ・ 両親が高齢となり、初めて社会福祉協議会の皆さまに関わりを持たせていただきました。正直、介護に関してはさっぱりわからずにおりました。一つひとつ丁寧に教えていただき、感謝しているところです。自営業ということもあり、両親の介護に不安はありますが、協議会の皆さまにお世話になりながらアドバイスをいただきながら努めていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。（６０代女性）
- ・ 配食サービスができれば、それにかわるもの。地域で最後まで生活できるような支援。社協又は町に困ったときに窓口となってくれる所。そこから、ケアマネなのか担当者につなげてもらい、解決できるよう手助けするところ。担当をたらい回さない、安易に病院に連れて行かない。どうすれば困っていることでサポートできることがあるか、提案することができる窓口
（５０代女性）
- ・ 人と関わるのが苦手などの理由で、困っていても困っていると声をあげられない（あげない）方がたくさんいると感じます（５０代女性）
- ・ 老人用の団地に住んでいるが、ネット環境が悪い。団地は、ラジオが受診できないほど頑丈な建物で、個人で設置している Wi-Fi では電波がとぎれがちになる。光通信ができる環境を整えてほしい。今は、なんでもネット・HPの時代。高齢者でもネットを使いたい人はいるし、将来は絶対に必要になるインフラだと思う。なるべく早急にしたいものです。（６０代女性）
- ・ 未就学児が平日、自由な曜日・時間に遊べる場所が欲しい（自由に出入り出来る児童館のような）。ぷちラッコだと、金曜の１時間半のみなので・・・（２０代女性）
- ・ 足（車）がないため、日常の品（食料等）の買い物が大変になった。コープの販売車が来ているようだが、いつ来ているのか分からない。買い物をするのに何か良い方法はないか
（７０代女性）
- ・ 子どもの放課後デイサービスが利用できる環境があれば利用したいです（４０代男性）
- ・ 要介護（特に認知症）にならないため、一人世帯へ様々な働きかけをしてほしい（５０代男性）
- ・ 活動・サービスの在り方について、私自身あまりわかっていないので意見は控えさせていただきます（３０代女性）